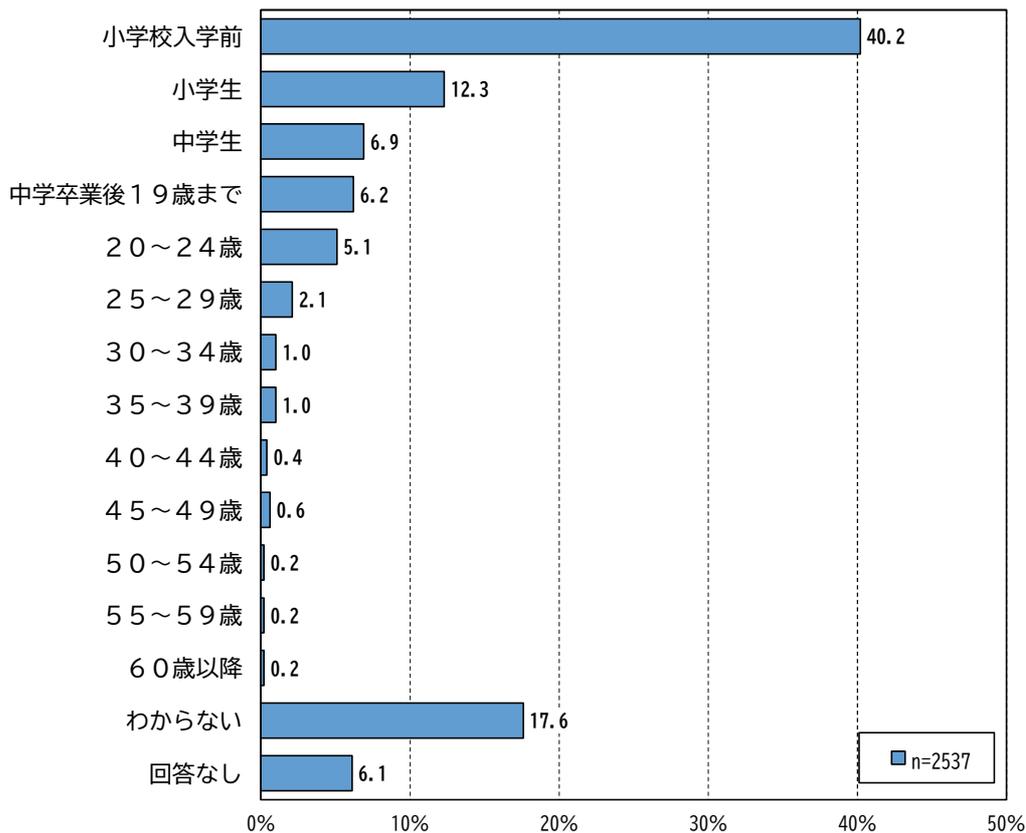


4 調査報告書の概要

(1) ご本人の状況

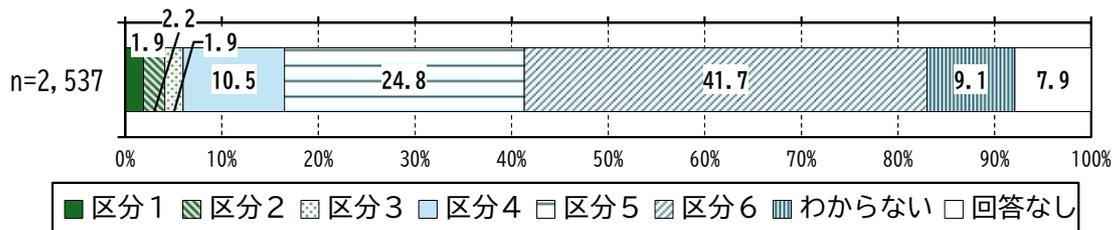
① 強度行動障害の症状が出始めた時期（問5 9ページ）

強度行動障害の症状が出始めた時期は、「小学校入学前」が40.2%、「小学生」が12.3%となっており、早期の始まりがうかがえる。他方で、「わからない」も17.6%ある。



② 障害支援区分（問6⑤ 13ページ）

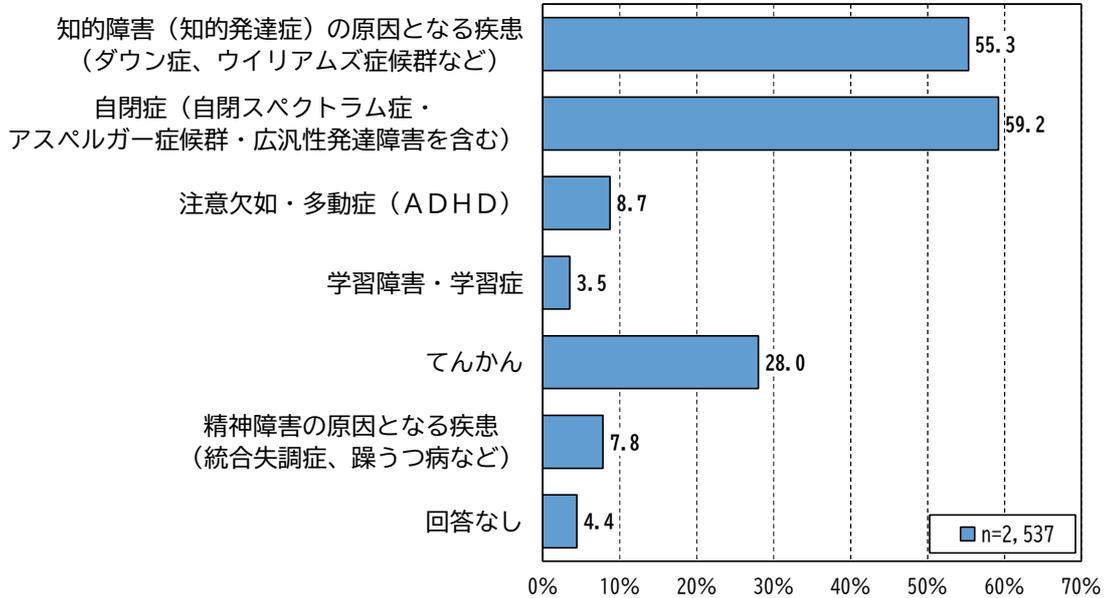
障害支援区分については、支援の度合いが最も重い「区分6」の比率が最も高く41.7%、続いて、「区分5」24.8%、「区分4」10.5%と、高区分者が大半を占める。他方で、支援の度合いが軽い区分1~3も、それぞれ2%程度ある。



③ あてはまる症状や状況（問 8 15 ページ）

ご本人の症状や状況については、「自閉症」が 59.2%、「知的障害」が 55.3%、「てんかん」が 28.0%となっている。

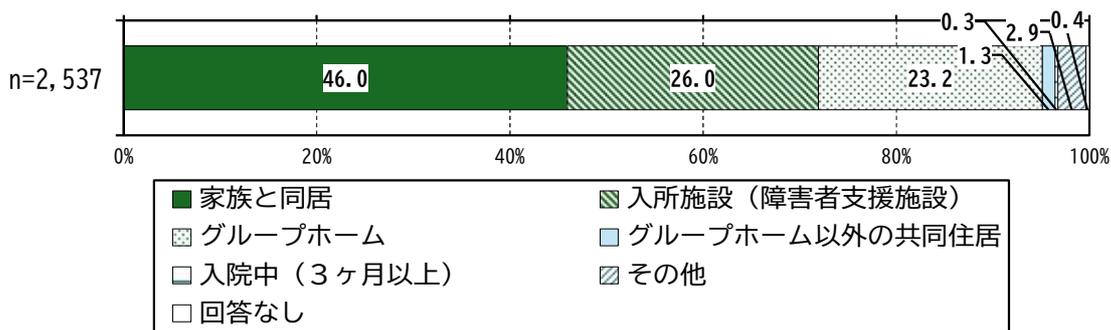
※本設問は複数回答



(2) 生活の場と家族の状況

④ 主な生活の場（問 11 18 ページ）

ご本人の現在の主な生活の場は、「家族と同居」が 46.0%で最も高く、「入所施設（障害者支援施設）」が 26.0%、「グループホーム」が 23.2%となっている。わずかだが、「グループホーム以外の共同住居」が 1.3%、「入院中（3ヶ月以上）」0.3%もある。



⑤ ご本人以外で介護や見守り等の支援が必要な同居家族（問 15 24 ページ）

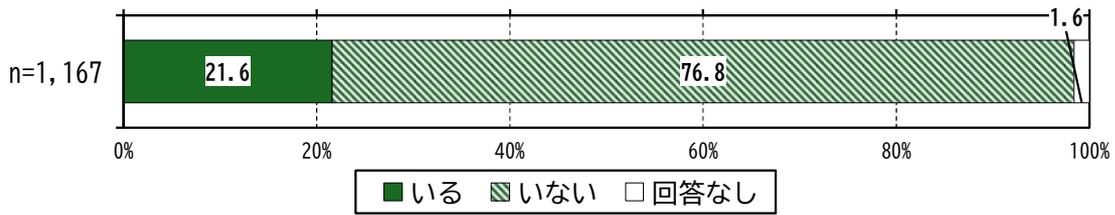
ご本人の他に、介護や見守り等の支援が必要な同居家族がいるかについては、「いない」が 76.8%、「いる」が 21.6%となっている。

人数については、「1人」が 75.8%、「2人」が 15.9%となっている。

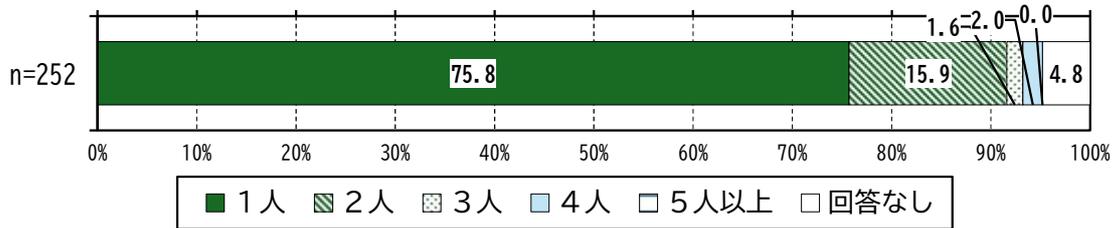
続柄については、「ご本人の兄弟姉妹」が 36.1%と最も高く、「ご本人の祖父または祖母」が 34.5%、「ご本人の父または母」が 31.7%となっている。

※続柄については複数回答

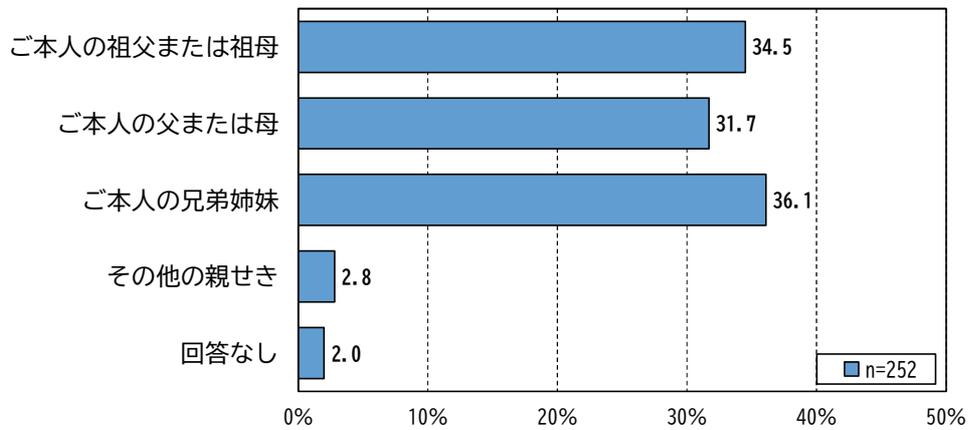
図表 ご本人以外に介護や見守り等の支援が必要な同居家族の有無



図表 ご本人以外に介護や見守り等の支援が必要な同居家族の人数



図表 ご本人以外に介護や見守り等の支援が必要な同居家族の続柄

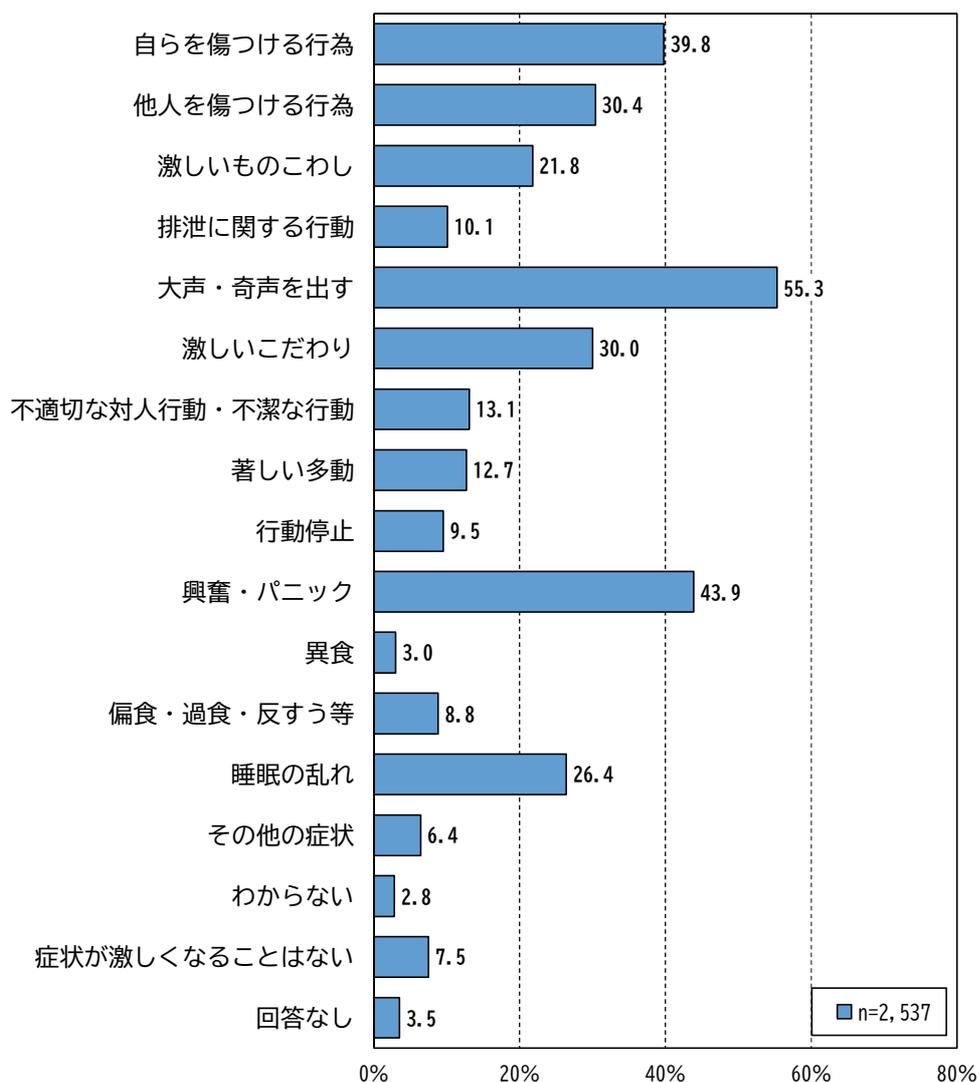


(3) 強度行動障害の状態

⑥ 状況が悪化するときに激しくなる行動（問17 35ページ）

ご本人の状況が悪化するときに激しくなる行動は、「大声・奇声を出す」が最も高く55.3%、続いて、「興奮・パニック」43.9%、「自らを傷つける行為」39.8%、「他人を傷つける行為」30.4%、「激しいこだわり」30.0%となっている。

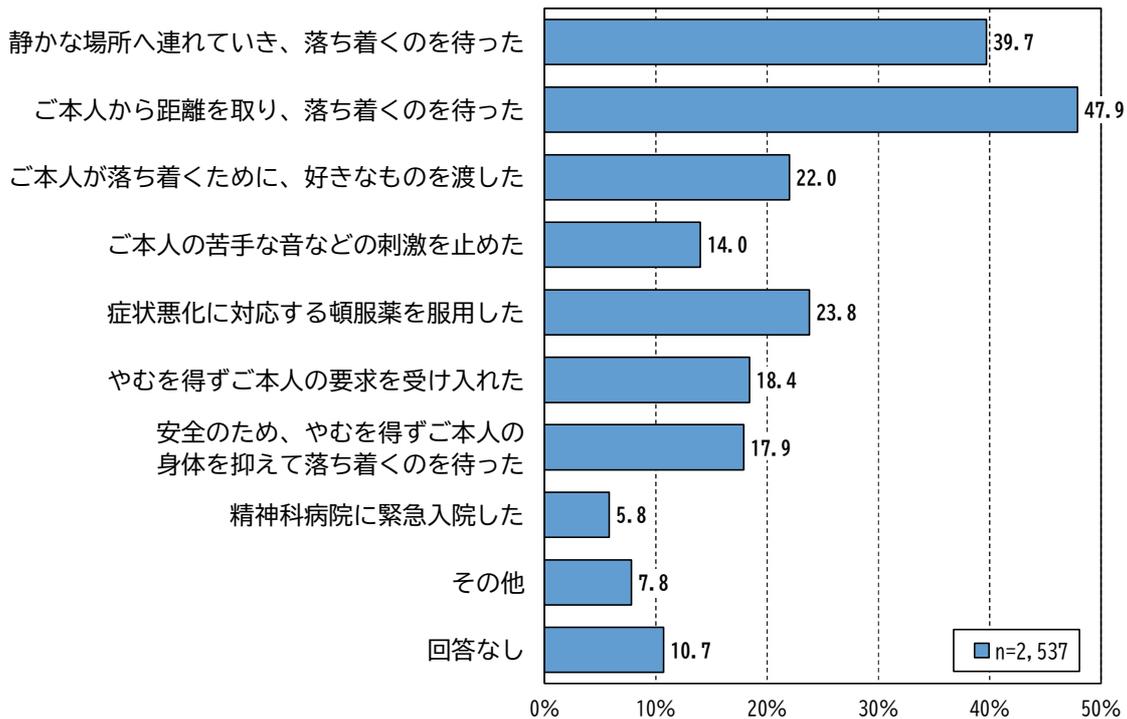
※本設問は複数回答



⑦ 行動の落ち着き方（問 18 37 ページ）

ご本人の状況が悪化するときに激しくなる行動の落ち着き方は、「ご本人から距離を取り、落ち着くのを待った」が最も高く 47.9%、続いて、「静かな場所へ連れていき、落ち着くのを待った」39.7%、「症状悪化に対応する頓服薬を服用した」23.8%、「ご本人が落ち着くために、好きなものを渡した」22.0%、「やむを得ずご本人の要求を受け入れた」18.4%となっている。

※本設問は複数回答



(4) 利用している福祉サービスや日中活動の場

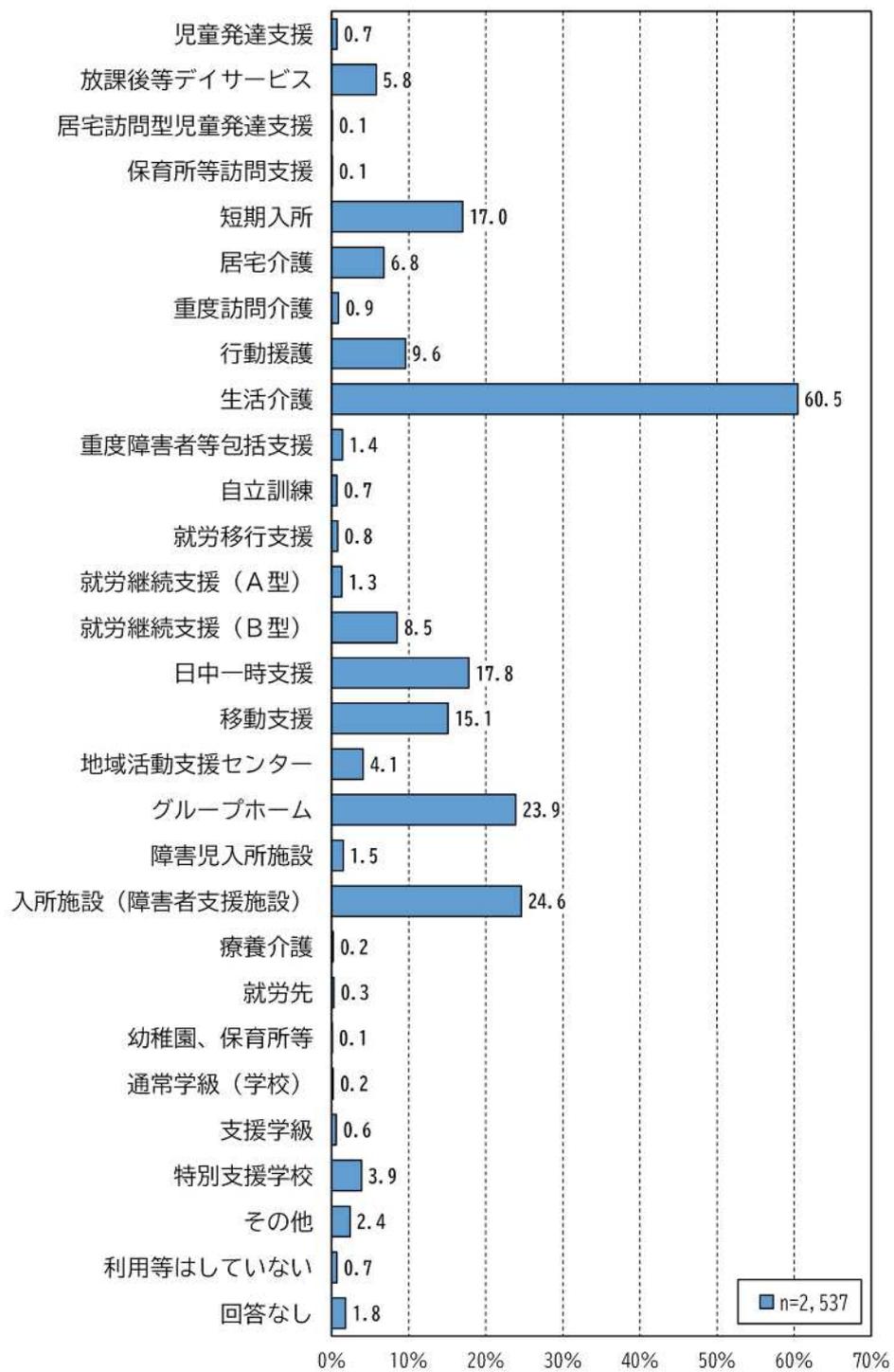
⑧ 普段利用している障害福祉サービスや日中活動の場（問 20 46 ページ）

現在、ご本人が利用している障害福祉サービスや日中活動の場については、「生活介護」が最も高く 60.5%となっている。

続いて、「入所施設（障害者支援施設）」24.6%、「グループホーム」23.9%と入所施設が並んでいる。

他にも、「日中一時支援」17.8%、「短期入所」17.0%、「移動支援」15.1%、「行動援護」9.6%、「就労継続支援（B型）」8.5%、「居宅介護」6.8%、「放課後等デイサービス」5.8%などの割合も高くなっている。

※本設問は複数回答



⑨ 利用したいのに利用できていない福祉サービス（問 22 54 ページ）

利用したいのに利用できていない福祉サービスとしては、短期入所（260 件）が最も多く、次いでグループホーム（227 件）、移動支援（168 件）、入所施設（障害者支援施設）（136 件）、日中一時支援（130 件）となっており、レスパイトや生活を支える基盤的サービスで件数が多い。

利用できない理由をみると、全体では「空きがなく断られた、待機中」や「事業所の都合で利用できなくなった」が多く、サービス需要に対して供給が追いついていない状況がうかがえる。あわせて、「強度行動障害を理由に断られた」との回答も、短期入所、グループホーム、移動支援、日中一時支援など複数のサービスで一定数みられ、障害特性を理由とした利用の難しさが示されている。

※本設問は複数回答

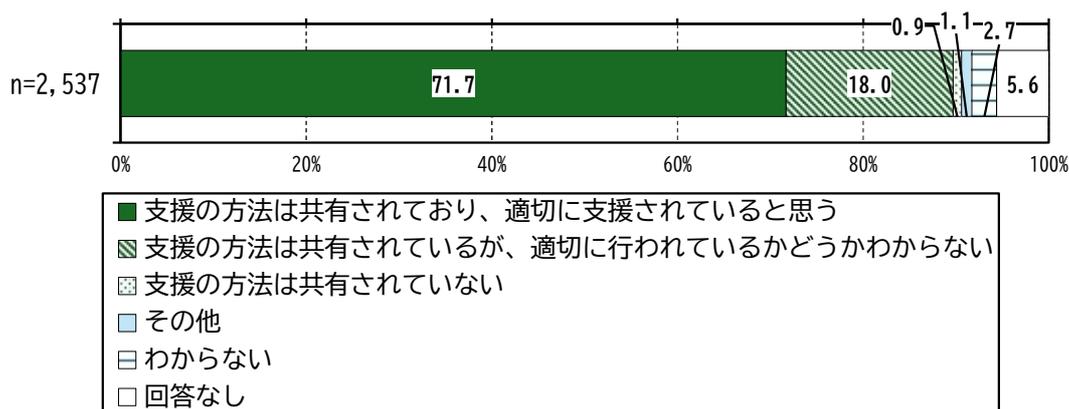
	A	B	C	D	E	F	G	
	強度行動障害を理由に断られた	事業所の都合で利用できなくなった	事業所の様子が分からないから不安	通える範囲にない	事業所の送迎がない（家族送迎必要有）	空きがなく断られた、待機中	その他	合計
1. 児童発達支援	4	6	1	3	5	3	10	32
2. 放課後等デイサービス	9	7	0	4	2	6	8	36
3. 居宅訪問型児童発達支援	1	0	0	3	0	0	2	6
4. 保育所等訪問支援	1	0	0	2	0	0	2	5
5. 短期入所	38	31	28	14	17	37	95	260
6. 居宅介護	2	8	2	2	0	5	11	30
7. 重度訪問介護	0	0	2	3	0	0	6	11
8. 行動援護	6	15	8	5	2	10	31	77
9. 生活介護	12	5	4	3	12	4	12	52
10. 重度障害者等包括支援	1	1	2	3	0	0	2	9
11. 自立訓練	1	0	1	5	0	0	5	12
12. 就労移行支援	1	1	3	1	1	0	3	10
13. 就労継続支援（A型・B型）	7	1	3	4	1	0	9	25
14. 日中一時支援	16	27	7	10	13	18	39	130
15. 移動支援	17	42	8	10	6	28	57	168
16. 地域活動支援センター	4	2	3	4	1	2	5	21
17. グループホーム	24	13	37	18	9	74	52	227
18. 障害児入所施設	1	1	3	3	0	3	6	17
19. 入所施設（障害者支援施設）	14	4	13	6	1	60	38	136
20. 療養介護	0	0	1	3	0	0	4	8
	159	164	126	106	70	250	397	1272

(5) 医療・関係機関との連携状況

⑩ 支援に関係する人との適切な支援方法の共有 (問 25 59 ページ)

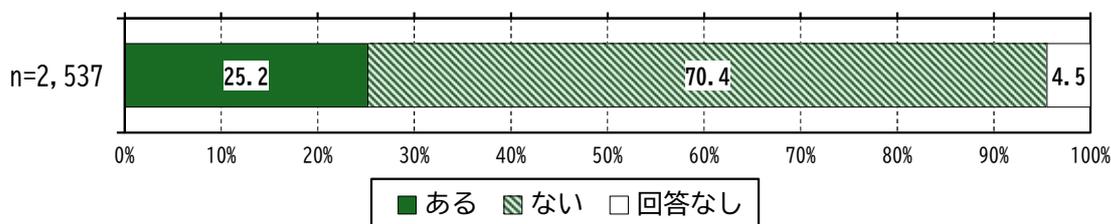
学校や事業所の職員等の支援に関係する人のご本人への適切な支援方法の共有については、「支援の方法は共有されており、適切に支援されていると思う」が71.7%と最も高くなっている。

他方で、「支援の方法は共有されているが、適切に行われているかどうかわからない」18.0%、「支援の方法は共有されていない」0.9%となっている。



⑪ 医療機関や歯科等を受診できなかった経験の有無 (問 28 66 ページ)

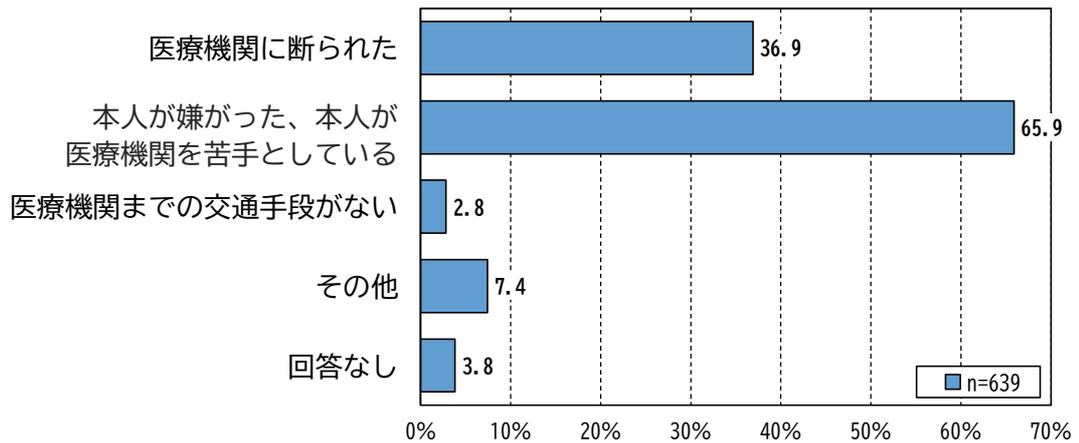
精神科系以外の医療機関や歯科を受診したいのに、できなかった経験の有無について、「ある」が25.2%、「ない」が70.4%となっている。



⑫ 医療機関や歯科等を受診できなかった理由 (問 28① 68 ページ)

問 28 で「ある」と回答した人 (639 件) のうち、その理由については、「本人が嫌がった、本人が医療機関を苦手としている」が65.9%、「医療機関に断られた」が36.9%、「医療機関までの交通手段がない」が2.8%となっている。

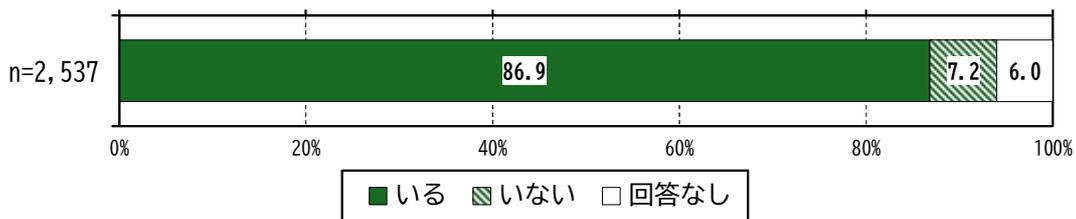
※本設問は複数回答



(6) 困りごとや必要な支援

⑬ ご家族が相談できる人の有無 (問 29 70 ページ)

行動問題や支援についての困りごとや不安などがあつたときの、ご家族が相談できる人の有無については、「いる」が86.9%と大半を占めている。一方で、「いない」が7.2%となっており、1割弱の方が、相談できる人がいない状況がうかがえる。



⑭ ご家族が相談できる人の属性 (問 29① 71 ページ)

問 29 で、相談できる人が「いる」と回答した人 (2,204 件) のうち、相談できる人の属性については、「通っている事業所の職員」が最も高く81.2%、続いて、「相談支援事業所の職員」が53.2%、「別居している家族、親族」が14.9%、「家族に強度行動障害の状態にある方がいるなど、同じような境遇の人」が14.7%、「友人」が11.5%となっている。

※本設問は複数回答

